



図書館員のおすすめ本



小学生

低学年（1・2年生向け）

『あのそらを きみにあげたい』

かとうようこ 作 たなか鮎子 絵／教育画劇



【内容紹介】

なかよしの2ひきのねこ、ミーナとゼブラ。ミーナの飼い主がひっこしてしまうことになりました。もうすぐ2匹はお別れです。ゼブラはミーナの心にのこる、とくべつなプレゼントをあげたいと思いました。

出会いと別れの季節にぴったりの切なくも心温まる絵本です。

【図書館員からのコメント】

相手のことを思ってプレゼントを考えるのは、素敵なことだと思える内容でした。ゼブラのプレゼントが何か、手に取って確認してください。

中学年（3・4年生向け）

『これがホントにいたんです！ 絶滅生物驚愕研究所』

今泉 忠明 監修／主婦の生活社



【内容紹介】

遠いむかしに絶滅してることができなくなった『驚愕』の生物たちについて知ってみませんか。

カンブリア紀のアノマロカリス、ジュラ紀のグアンロン、新生代のガストルニス……名前だけでも気になる生物がいたら読んでみてください。

【図書館員からのコメント】

この本を読んで知った生物の中に『パラケタテリウム』という生物がいました。名前からはどんな生物かわからず、書いてある説明を見ても嘘みtainな生物だなと思いました。そんな生物がいっぱい出てくる楽しい本です。

高学年（5・6年生向け）

『よのなかの攻略法』

西村 博之 著、フタバマリ 漫画／小学館



【内容紹介】

学校生活に関する悩みって色々あるよね。勉強、恋、友だち、いじめ、つらいとき…。“論破王”ひろゆきが、そんな子どもたちの悩みをすっきり解決！学校では教えてくれない、楽しく暮らすための考え方をまんがとともにわかりやすく伝えている。

【図書館員からのコメント】

みんなが知っている“論破王”は、誰でも考えたことのある悩みにわかりやすく答えてくれます。自分の考えの他に「こういう考え方もある」と思わせてくれる本です。

中学生

『どうして黒くないのに黒板なの？』

加藤 昌男 著／少年写真新聞社



【内容紹介】

黒板が日本の学校で使われるようになったのは今から150年ほど前。

毎日の授業になくはならない黒板の歴史から、色について、よい黒板とはどんなものか、やってはいけないこと、そして進化している電子黒板などを解説しています。

【図書館員からのコメント】

学校に通っているみなさんには身近なものでしょうか。学校には黒板があって当たり前という意識があり、あまり気にしたことはありませんでしたが、黒板の材料についてや「よい黒板」のための工夫など、興味深い内容がたくさんでした。

『理想の色に巡り会える日本の伝統色』

橋本 実千代 監修／三才ブックス



【内容紹介】

柿色、乙女色、鳶色、檸檬色。名前を聞いてわかる色もあれば、どんな色なのか想像のつかないものもある日本の伝統色。古くから伝えられ、受け継がれてきた日本固有の名前が紹介されています。どういった色なのか、どんな由来があるのかが色を見ながら楽しんでみてください。

【図書館員からのコメント】

文字だけでなく、描かれている色を楽しむことができる本です。見たことのある色や知らない色もたくさんあるので、お気に入りの色を見つけることができるかも知れません。

『願いを叶える雑貨店 黄昏堂』

桐谷 直 著／PHP 研究所



【内容紹介】

どこにもない不思議なお店『黄昏堂』。そこに迷い込んだ人は、自分の願いを叶えるアイテムが手に入る代わりに大切な記憶を手放すことに…。

「このあとどうなるの？」と気になって、予想外の結末にハッとすると、5分間ノンストップショートストーリーです。

【図書館員からのコメント】

1話5分で読める短編集です。まさかと思う結末、心温まる結末がこの1冊に詰め込まれています。

あなたはどの物語が好きですか。

